

平成 29 年度 食育推進に係る実践報告書

学校名	三次市立三次小学校		
学校長氏名	長手 麻美	栄養教諭氏名	三上 千富
職員数	30名	児童・生徒数	257名

1 学校における食育の現状（昨年度からの課題等）

- ・本校では、基本的な生活リズムが乱れがちな児童が多く、食生活が不規則で食事の内容も整っていない（朝食欠食、栄養バランス等）児童がいる。
- ・食べることに関心のある児童は多く、給食を楽しみに登校してくる児童も多い。給食時の笑顔や、返却時の挨拶はとても気持ちよく、積極的に感想を伝えてくる子どもが多くいる。

2 学校の食育に係る目標（成果指標・目標値）

- ・食事の挨拶がきちんとできる。（見取りにより 90%以上）
- ・食事の基本的なマナーを身に付ける。マナーを守ろうと努力できる。（見取りにより 90%以上）

3 食育の目標に対する具体的な取組

【取組 1】（テーマ） 児童の給食や食事へ関心を高める

- ・給食委員会の活動を中心に、給食放送に食材のクイズをとり入れたり、教職員への給食の聞き取りからクイズを出したりして、全校児童に関心をもたせるよう取り組んだ。
- ・給食時間に毎日全クラスを巡回することで、食材の産地や栄養などを細やかに伝えていくように心掛けた。
- ・給食時間の巡回時に子どもたちの好き嫌いや、リクエストなどに耳を傾けることを心がけ、個々の家庭の背景などについては担任と連携をとるようにした。

【取組 2】（テーマ） マナーを守り食事に感謝できる児童を育てる

- ・児童会の給食委員会の活動を中心に、日ごろの給食や食事のマナーを知らせ、それを守ることが周りへの気遣いであること、給食にかかわる人への感謝を表すことにつながることを伝えていった。
- ・学級活動を中心に、朝食の大切さや食事のマナーを守ることでみんなが気持ちよく食事ができることなどを授業の中で指導できた。実態としては、基本のマナーを知ってはいるが守られていない児童もまだ多い。
- ・食育朝会で調理場の 1 日の仕事を紹介したことから、調理場での仕事にも関心をもち、給食当番で調理場に返却に来るとき興味をもって話を聞くなど、より給食に関心をもつ子が増えた。
- ・食事のマナーの授業後、感謝の気持ちのこもった大きな声で挨拶ができるようになり、そのことを全校朝会でも紹介した。さらにその後広がりを見せている。挨拶は 95%以上できている。

【取組 3】（テーマ） 自分の生活に生かせる食育の実践

- ・三次市の健康推進のひとつ『健塩』を、昨年度から学校給食でも実践するよう取り組んでいる。今年度は、朝会や給食時間、授業で実践的に取り組むよう市内の栄養教諭・栄養職員で進めてきた。

三次小学校区では、食育朝会で『健塩』をテーマに色水を使って塩分の摂りすぎと生活習慣病について指導を行った。その後は、給食の塩分や自分の食べるお菓子の塩分など関心をもたせることができた。



4 「ひろしま給食100万食プロジェクト」の取組について

- ・給食委員会の児童と、『ひろしま給食100万食プロジェクト』へ向けて、献立、キャッチコピーの応募に取り組んだ。残念ながら賞には入らなかったが、2学期に給食の中に応募した献立「アスパラ混ぜまぜハンバーグ」と「鶏肉の塩こうじレモン焼き」をとり入れ、子どもたちに「ひろしま給食100万食プロジェクト」の取組に関心をもたせることができた。
- ・昨年に続き、三次市内の栄養教諭・栄養職員で市内高学年児童を対象に、『ひろしま給食メニュー親子クッキング教室』を開催し『ひろしま給食』の啓発活動を行った。親子で会話をしながら、時間内に無理なくできる内容で、家庭でも作ってみたいという声もあり、ひろしま給食についても関心をもってもらうことができた。



5 取組に対する成果と課題

【成果】

- ・昨年度の食育の授業が今年度にも引き継がれていることを実感できた。特に給食の挨拶や感謝の気持ちについては、調理場の職員にも反応がわかるほどの成果がみえた。残菜もほとんどなくなっている。
- ・家庭の食事や生活は簡単には変えられないが、食べることは命をつなぐことであり、まずは関心をもつことが大切だということが少しずつ伝わっている。

【課題】

- ・食に関しては、経済的なことや家庭の課題が関係しているので、食のバランスの悪さが学習や学校生活に影響している。子どもたちへの食育だけでは解決しない問題であることを考えると、地道な取組と様々な場面での支援が今後必要になると思われる。

6 今後の取組に向けた改善方策について

- ・市内の栄養教諭・栄養職員で、授業や研究テーマなどを共有し、指導内容や方法をまとめて連携していく。
- ・職員の異動やクラス替えなどの環境が変わっても、継続できるように指導内容や方法を明らかにしておく。
- ・みよしふるさとランチの日のように、ひろしま給食も県北の身近な食材などを生かし、より子どもたちに共感できるような取組にしていく。